

栄養管理とマネジメントのエキスパートを養成する
「栄養経営士」 資格認定
 基礎講習始まる!

「栄養経営士」の育成に向けた第二步
「資格認定基礎講習」の
全貌を紹介！

「栄養経営士」資格認定試験の受験要件のひとつである、「資格認定基礎講習」が4月29日の東京会場を皮切りに、全国で開催される。今号では、この「資格認定基礎講習」の位置づけを改めて説明するとともに、カリキュラムとその具体的な内容について紹介する。

「資格認定基礎講習」の受講は
受験資格がない方でもOK

「栄養経営士」の資格取得に当たっては、本年11月29日に実施される資格認定試験に合格し、認定を受けることが必要となるが、資格認定試験を受けるためには事前に全国各地で開催される「資格認定基礎講習」(以下、基礎講習)を受講すること(が求められる^④参照)。

資格認定試験においては受験資格として「管理栄養士として現に2年以上の実務経験を有する」としているが、基礎講習の受講においては要件等の設定がないため、誰でも受講することが可能となっている。

管理栄養士の方も
ちろんのこと、医療機

関や介護福祉施設において、管理栄養士とともにチーム医療を実践

する他職種の方、栄養分野に関わりのある仕事をしている方、今後栄養分野で働きたいと考えている方など、業種や職種にとらわれず、さまざまな方に受講をしていただきたいと考えている。

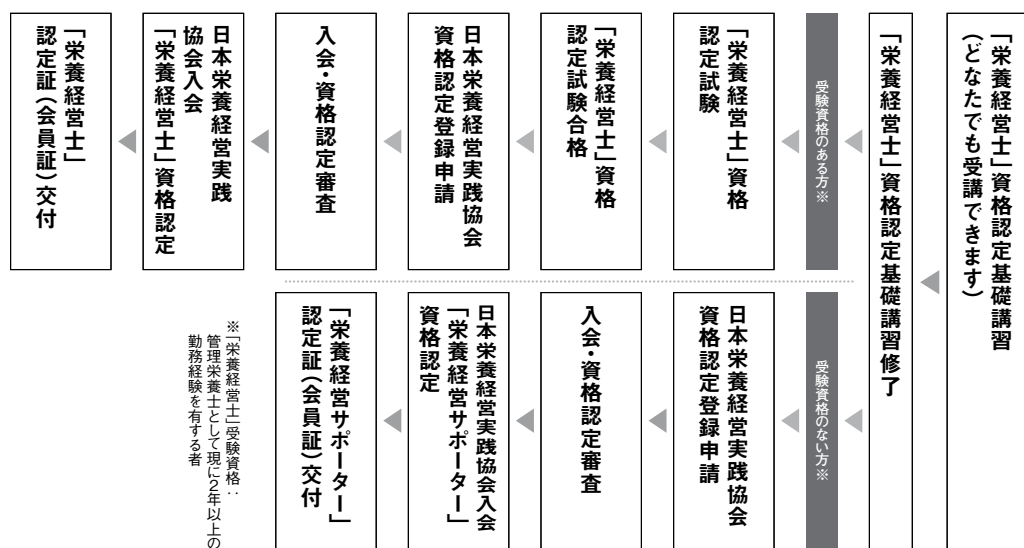
この基礎講習の受講を通してより多くの方に医療機関や施設における栄養部門が現在抱えている問題やこれからの可能性について理解していただくことができるのではないだろうか。同じゴールを共有することで、栄養経営士という枠を超えたネットワークが構築さ

れていくことを目指している。多業種・多職種の交わりのなかから、栄養部門の新たな道が拓かれていくことを期待したい。

なお栄養経営士の受験資格がない方は、「受講するだけで終わり」というわけではない。基礎講習受講後に当協会に入会することで「栄養経営サポーター」として認定を受けることができる。「栄養経営サポーター」は、協会が発行する会報誌等の購読や協会推薦図書の割引購入、協会主催セミナーへの参加割引等、栄養経営士と同様の特典を受けることができる。

詳細については協会ホームページに掲載されているので参考にしてください。

図:「栄養経営士」および「栄養経営サポーター」資格認定までの流れ



栄養経営士に必要な能力を学ぶ 基礎講習のカリキュラムとは

ここからは、その基礎講習の内容について具体的に説明していく。基礎講習の概要と、カリキュラムについて**表のとおり**（2面参照）。本カリキュラムは、当協会が考える「栄養経営士に必要な6つ能力」、すなわ

ち「現状分析・評価能力」「目標設定能力」「適材適所の人事能力」「人事評価能力」「アウトカムの評価・分析能力」「病態把握能力・教育」を基に作成されている。これら6つの能力について、それぞれが具体的にどのような

のか、なぜその方が必要になるのかを理解し、それらを学んでいくために不可欠な視点や考える力を着実に身に付けていただくことを目的としている。

まず冒頭のオリエンテーションでは、「栄養経営」という概念を理解していただき、「栄養経営」の実践を担う「栄養経営士」の役割を正確に把握していただくための講義を行う。

「栄養経営」という言葉自体が新しいものであり、実際にどのようなことを指すのか、具体的に何をすればよいのか、まだ漠然としている方も少なくないのではないだろうか。このオリエンテーションを通して「栄養経営士」を目指す皆様とその部分をしっかりと理解していただくことで、「栄養管理の現場で何をすべきか」という栄養経営士としてのミッションが見える化されると考えている。

表:「栄養経営士」資格認定基礎講習概要とカリキュラム

受講料	8,000円(税込)
受講時間	10:00~17:00
受講資格	資格、年齢、学歴、職業、国籍等の制約はなく、誰でも受講できます

●日程及び会場

日程	会場	受講会場
4月29日(水・祝)	東京	大和ハウス工業株式会社 東京本社・本店会議室 東京都千代田区飯田橋三丁目13番1号
5月3日(日)	仙台	エル・パーク仙台 宮城県仙台市青葉区一番町4丁目11番1号
5月24日(日)	名古屋	株式会社日本医療企画中部支社セミナールーム 愛知県名古屋市中区栄2-12-12 アーク栄白川パークビル3F
7月19日(日)	大阪	未定
7月20日(月・祝)	金沢	未定
9月23日(水・祝)	福岡	未定
9月27日(日)	札幌	未定
10月12日(月・祝)	東京	未定

※2015年3月現在

講師からの一方的な講義ではなく
受講生も参加できるスタイル

オリエンテーションの後には具体的な講義に入っていくことになるが、カリキュラムの①から⑥までは、それぞれの項目について「概要説明」「講師と受講生のディスカッション」

オリエンテーション:「栄養経営」とは

- ① 院内・施設内における栄養部門の現状分析
- ② 目標設定能力と達成に向けた実践的アプローチ
- ③ 業務の質を高めるためのアウトカム分析
- ④ 「栄養経営士」に求められる教育と人事能力
- ⑤ 適材適所の組織マネジメント
- ⑥ 病能の把握と臨床栄養教育

講師:宮澤 靖氏

(一般社団法人 日本栄養経営実践協会代表理事) ほか

「スライドによる事例解説」という流れで実施される。まずはその項目の意図するところを説明した後、受講生宛に事前に送付される質問に基づいて講師と受講生が対話を行う。

質問内容は例を挙げると、「あなたの栄養部門には今どのような問題がありますか?」「あなたの栄養部門には要員の教育の方針が掲げられていますか?」といった内容のもの。これらを見てわかるとおり、その質問は明確な答えが必要となるものではなく考えさせる内容のもので、それぞれの受講生にはその内容について自分なりの答えを考えて参加することを期待している。

講義のなかでは何名かの受講生にその答えを発表してもらい、なかでも、一方的な聴講スタイルの講義ではなく双方向型のディスカッションを行うことを想定している。参加者が他人ごとではなく「自分自身のこと」と捉え、より深い理解を得ていただくことに加え、ディスカッションを行うことで「栄養経営」を実践していく仲間同士のネットワークづくりのきっかけにもなるのではないだろうか。

続くスライドによる事例解説は、講師である宮澤代表理事が所属する社会医療法人近森

会近森病院の事例を基に行われる。ディスカッションを行った内容について具体的な実践事例を通して解決へ

具体的な事例の症例検討を通して
臨床における「みる力」を養う

そして最後となる⑥「病態の把握と臨床栄養教育」では、病態把握に不可欠な症例検討を行う。この症例について、受講生には事前概要が渡され、自分なりの検討を行ってから講義に臨んでいただくことになる。

症例検討では、カルテ上の検査数値に着目するだけではなく、そこに書かれていない内容で必要なものは何か、患者さんの生活を見据えて求められるものをどこまで想像

することが求められるのかを、実際の症例を基に考えていく内容となる。

管理栄養士にはさまざまな症状が複雑に絡み合う病態を総合的に把握することができ、

の方向性を示すことで、「どのように考えていけばよいのか」という指針となることを目指している。

身につけていただきたいと考え、この「病態の把握と臨床栄養教育」は他の項目よりもしっかりと時間をかけて講義を行うことになっている。

最後に1日の振り返りとして、講義やディスカッション、事例紹介や症例検討を通して得た新たな視点や気づきについて、文章にまとめたものを提出していただく。文章の提出をもって基礎講習受講修了となり、修了者に

は後日、修了証が送られる。

もちろん1日間という短い時間のなかでこれらの内容を深く理解し、「マネジメント」と「栄養管理」のエキスパートになれるというわけではない。まずは1日の学びを通して、栄養管理のプロフェッショナルとしての使命をしっかりと認識していただきたい。

使命の達成に向けて不可欠となるマネジメント。その意義を十分に理解した「栄養経営士」として活躍していただくためのスタートラインに立つことが、この基礎講習の大きなねらいである。栄養部門に携わる多くの方の受講を期待したい。

資格認定基礎講習の受講生に向けて

「マネジメント」を共に
学ぶことを私自身も楽しみたい

講師:宮澤 靖氏
(一般社団法人 日本栄養経営実践協会代表理事)



この基礎講習は、今まで、管理栄養士としてなかなか教育・実践をする機会がなかった「マネジメント」に特化した内容となっています。もちろん、医療機関や施設で勤務する管理栄養士が、今後もっと活躍の幅を広げていくためには、「マネジメントができればよい」というわけではありません。それだけでは不足であり、やはり臨床の力、つまり病態を把握する能力というのも重要です。その両方の力を兼ね備えた管理栄養士でなければ、社会の変化に応じて管理栄養士を取り巻く環境も変わっていくなかで、せっかく自分の持っているポテンシャルを十分に発揮できないのではないかと考えています。ですから、この基礎講習では、「マネジメント」と「病態把握」という、これからの時代に生き残る管理栄養士にとってどうしても必要になるスキルを習得するというのを目的としていますので、多くの方に受講していただきたいと思っています。マネジメントスキルがあり、さらに患者をみることのできる、そんな「栄養経営士」の方が現場に増えてくることを期待していますし、そのような気概を持った皆様と一緒に学べることを私自身も楽しみにしております。

管理栄養士・栄養士のための今日から使えるノウハウが満載

次世代を生き抜く管理栄養士・栄養士をめざそう

ヘルスケア・レストラン 5月号

医療・保健・福祉・介護の栄養と食事サービスを考える

大特集 人と組織、そして地域をつなぐ連携の要
今、管理栄養士に求められる
コミュニケーション力

特別座談会
チームアプローチとコミュニケーション

栄養士応援企画
今だから言える! ベテラン管理栄養士の失敗談 他

※表紙は4月号のものです。

ヘルスケア・レストラン 検索

●毎月20日発行 ●A4判/88ページ
●定価:1,188円(税込) ●定期購読料:14,256円(税込)

4月20日発行!

コストマネジメントを
実践しよう

ヘルスケア・レストラン【別冊】

嚥下機能の低下した高齢者への適切な食事提供に向けた
病院・地域での取り組み

経口摂取アプローチ ハンドブック

嚥下障害と経口アプローチのすべてがわかる!
臨床現場で活躍する実践形による、
“管理栄養士が現場ですぐに実践できる”経口アプローチの解説書

患者さんの嚥下情報を
まとめて記録できる
「嚥下パスポート」付き

●編集:藤島一郎(浜松市リハビリテーション病院院長)
栢下淳(県立広島大学教授)
●体裁:A4判/224ページ ●定価:2,000円+税

お問い合わせ 株式会社日本医療企画

☎03-3256-7495 http://www.jmp.co.jp/

『栄養経営士』テキストシリーズ

全6巻一覧

体
定
総
監
修
行

裁:各巻B5版／1C
価:各巻2,500円＋税
監修:宮澤 靖 (社会医療法人近森会 近森病院 臨床栄養部部長)
行:株式会社 日本医療企画

第1巻 病棟業務管理

不要な絶食患者ゼロをめざす 病棟業務マネジメント

—— 栄養部門が経営の一翼を担う ——

監修:真壁 昇 (関西電力病院疾患栄養治療センター)

内 容

- 1 口から食べて退院させることを常に意識することが管理栄養士の使命である
- 2 近森病院の事例から学ぶNSTの変遷とアウトカム
- 3 絶食患者ゼロをめざすための静脈栄養管理の基礎知識
- 4 絶食患者ゼロをめざすための経腸栄養管理の基礎知識
- 5 症例から学ぶ経腸栄養のプランニングの実際
- 6 経腸栄養における下痢のリスク管理の実際
- 7 褥瘡管理をめざす管理栄養士の病棟配置

第3巻 組織マネジメント

栄養部門の存在意義を 高めるリーダーシップ

—— 専門職としての使命を全うできる環境づくり ——

監修:宮澤 靖 (近森病院臨床栄養部部長)

内 容

- 1 管理栄養士に求められるリーダーシップとは?
- 2 選択と集中に基づく組織のあり方
- 3 部門に必要な自立・自動の組織づくり
- 4 部門員の性格の把握と適材適所の人員配置
- 5 栄養部門における労務管理と要員教育
- 6 次世代のリーダーを生み出す組織をつくらう

第5巻 多職種協働コミュニケーション

チーム医療を成功させる コミュニケーション

—— 人と組織、そして地域をつなぐ連携の要 ——

監修:秋山 和宏 (東葛クリニック病院副院長)

内 容

- 1 多職種協働におけるコミュニケーションの重要性、信念対立説明アプローチの立場から
- 2 栄養管理計画のプレゼンテーションができていますか? (求められる聴く力)
- 3 カンファレンスに必要な情報収集とブレカンファレンス
- 4 カルテを読むために必要なフィジカルアセスメントの知識
- 5 管理栄養士に必要なカルテの読み方 (検査データから患者の生活背景まで)
- 6 電子カルテを用いた情報収集
- 7 栄養士語を多職種共通言語に翻訳しよう
- 8 医師とのコミュニケーションに不可欠なスキル
- 9 看護師とのコミュニケーションに不可欠なスキル
- 10 栄養指導で求められるコミュニケーション力
- 11 チーム医療は参加する医療に進化する

第2巻 コスト管理

ビジョンの実現に向けた コストマネジメント

—— 業務の選択と集中で患者満足度を高める ——

監修:大谷 幸子 (淀川キリスト教病院栄養管理課課長)

内 容

- 1 何のためのコスト管理なのか?
- 2 食材のコスト削減が招く喫食率の低下～業務の選択と集中で患者満足度の実現をめざす～
- 3 栄養指導件数のノルマ増で医師からのオーダーがゼロになる?
- 4 コストだけで選んだ栄養剤は本当に適切なものですか?
- 5 コスト削減が招く輸液・薬剤のコスト増という経営危機
- 6 治療成績向上のためのグローバルコストという考え方
- 7 経腸栄養ポンプはグローバルコストの点で有益である
- 8 業務の選択と集中で考える新たなコスト管理

第4巻 人材教育マネジメント

自ら考え行動する人材の 育成と目標管理

—— 鉄は熱いうちに打たなければならない ——

監修:山下 茂子 (熊本県立大学環境共生学部非常勤講師)

内 容

- 1 チーム医療の新しい概念～アウトカムが出るチーム医療とは?～
- 2 なぜ3年間の厨房業務がスタートなのか～問われる管理栄養士の職責と資質～
- 3 部門員にめざすべきゴールを示せていますか?
- 4 熱いうちに鉄を打つ、初期教育がリーダーを育てる～創造性豊かな管理栄養士の未来を育てよう～
- 5 業務における問題意識が仕事の情熱を左右する
- 6 看護師教育のラダーに学ぶ10年間の栄養士教育～人は人によって磨かれる。質の標準化をめざした教育とは～
- 7 屋根瓦方式に学ぶ教育法～学びの積み重ねは、指導者をも成長させる～
- 8 研修生の受け入れを部門員のスキルアップに活かす
- 9 部門員のモチベーションを高める評価方法と労務管理
- 10 管理栄養士は理想の上司になれるか

第6巻 病態栄養

臨床スキルアップのための 病態把握と栄養ケア

—— 病態の理解なくしてチーム医療に参画はできない ——

監修:吉田 貞夫 (沖縄メディカル病院内科部長/金城大学客員教授)

内 容

- 1 糖尿病と栄養管理
- 2 心不全、カヘキシアと栄養管理
- 3 腎疾患と栄養管理
- 4 呼吸器疾患と栄養管理
- 5 肝胆道疾患と栄養管理
- 6 褥瘡と栄養管理
- 7 感染症と栄養管理
- 8 がんと栄養管理
- 9 高齢者と栄養管理
- 10 認知症と栄養管理
- 11 検査データの評価と栄養学的な対応
- 12 NSTメンバーの教育

監修者からの メッセージ

第1巻

監修:真壁 昇

(関西電力病院疾患栄養治療センター)



管理栄養士業務の変革期にあたる現在、病院の管理栄養士の業務は「人」を対象とした栄養管理に集中させ、給食管理についてはそれを専門とする集団に全面業務委託するなどして、“選択”と“集中”を極めて強く意識することが重要です。病棟で口から食べられるためのチームマネジメントを実践することが、「人」を対象とした栄養の専門職の使命であると考えます。

(出典:『ヘルスケア・レストラン』2015年3月号[日本医療企画])

第2巻

監修:大谷 幸子

(淀川キリスト教病院栄養管理課課長)



企業にとっては、コストを考えることも大切ですが、社会貢献も1つの役割です。社会貢献を目標とし、品質を上げれば必ず、利益もついてきます。同じように、栄養指導をする管理栄養士にとって最も大切なことは、患者の病気が治るために自分に何ができるかを常に考え、誠意をもって職務にあたることです。その誠意が、必ず、病院経営にもよい効果を与えたいと思います。

(出典:『ヘルスケア・レストラン』2015年1月号[日本医療企画])

第4巻

監修:山下 茂子

(熊本県立大学環境共生学部非常勤講師)



生き残る管理栄養士とは、臨床家であり(現場主義)、向上心があり、常に新しい知識を身に付けようという意識がある、多職種と協力できる、チームのコーディネータになれる、栄養ケア・マネジメント(NCM)ができる人。これが私たちのめざす「栄養経営士」の基本です。

(出典:『ヘルスケア・レストラン』2015年1月号[日本医療企画])

第6巻

監修:吉田 貞夫

(沖縄メディカル病院内科部長/金城大学客員教授)



栄養経営士となる管理栄養士には、ぜひ、これまでの患者さんの人生すべてを受け止め、その価値観に合った適切なアドバイスができるような管理栄養士になってもらいたいです。それは管理栄養士という枠を超えた治療のパートナーになるということかもしれません。このような管理栄養士は、きっと患者さん、そして多職種から必要不可欠な存在になるはずです。

(出典:『ヘルスケア・レストラン』2015年1月号[日本医療企画])

当協会副代表理事 秋山 和宏氏 インタビュー

栄養管理の知識とマネジメントスキルの2つの専門性を有するのが栄養経営士

あきやま かずひろ
秋山 和宏

東葛クリニック病院副院長。防衛医科大学卒業・多摩大学大学院経営情報学研究科卒業。東京女子医科大学消化器病センター外科、至誠会第二病院外科、東葛クリニック病院外科勤務を経て現職。医学博士、MBA(経営学修士)、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医。一般社団法人日本栄養経営実践協会副代表理事。

私は「栄養経営士」の第5巻『チーム医療を成功させるコミュニケーション』の監修・執筆を担当しました。組織が効率を上げて生産性を高

め、患者の体質を根本から変える栄養管理は今後ますます重要になっていくでしょう。当院では栄養サポートチームを導入してから、患者の合併症が減ったり、治療期間が短縮するなどさまざまな効用が見られました。病院経営における栄養部門の貢献度は、収支だけで見れば小さいのかもしれないが、病棟に管理栄養士が1人いるだけで、医療の質は確実に上がります。これからの病院には、単に病気を治すだけでなく、病気になる手前の段階で介入するような役割が求められるでしょう。医療スタッフや高度な医療機器など貴重な医療資源を広く活用しながら、医

療活動の主戦場を病院の外に置き、地域住民の疾病予防にかかわっていきます。私はその際、栄養を糸口にする

と社会との接点を見出しやすいのではないかと考えていて、「ソーシャルニュートリション」という新しい概念を提唱したいと思っています。その実現に向けては、栄養の知識を備えた管理栄養士よりも、もう少し広いマインドを持った人材が必要です。「栄養経営士」はそうした時代のニーズが生んだ新しい資格だと言えるでしょう。

これから「π字型」のキャリア開発が必要

私は「栄養経営士」の第5巻『チーム医療を成功させるコミュニケーション』の監修・執筆を担当しました。組織が効率を上げて生産性を高

めるためには多職種による分業と連携が重要です。しかし、ここで分業を図るために、自らの専門性を高めることだけに注力してしまうのは、大きな間違いです。確かに専門性は必要です。しかし、目まぐるしく時代が変化していくなかで、専門性や技術はいつの間にか陳腐化してしまうことがあります。専門性よりも大切なのは連携のほうで、自らが解決できない問題は連携によって誰かに解決してもらえばいいわけです。

T字型のキャリア形成をご存知でしょうか。「T」の横棒は異分野との連携の広がり、縦棒は専門性の深さを意味しています。経営コンサルタントの大前研一氏は、これからの人材は「T字型」ではもうダメで、少なくとも2つ以上の専門性を持った「π字型」でなくてはいけないと述べています。

そういった意味では、栄養経営士は「栄養管理に関する深い知識」と「マネジメントスキル」という2つの

専門性の上に、多職種や異なる分野とスムーズに連携していく力を持った人材だと言えるでしょう。

今の世の中は何かを学ぶうえで便利なものが揃っています。資格制度もその一つで、テキストやスキルアップできる仕組みができていくのなら、そこに乗っからない手はありません。

目指す頂点に向けて、独学で砂利道をてくてく歩いて行くよりも、資格制度という高速道路があるのですから、それを利用して皆で一気に進んだほうが断然速くたどり着きます。高速道路の先にある8合目あたりで立ち往生している先頭集団に追いついてからが本当の勝負です。

栄養経営士を目指す方々には、高い次元の目標と広い視野を持つてほしいと思います。目の前の患者を良くする、医療界に貢献することももちろん大切ですが、誰も想像しなかったようなまったく新しい分野を切り開いてくれることを願っています。

ヘルスケア・レストラン特別セミナー

栄養サポートの実践と経営栄養、咀嚼嚥下に基づく経口アプローチの考え方

現在、入院早期から対象患者に栄養介入し、静脈栄養から経腸栄養、そして経口摂取へと移行することが栄養管理のプロである管理栄養士に強く求められるようになりました。したがって管理栄養士は、対象患者の病態を総合的に評価し、退院へとつなぐためのチームアプローチをしっかりとマネジメントしていかなければなりません。本セミナーはこのマネジメントに焦点を当てたものです。周術期におけるチームアプローチのマネジメントや食べる力をマネジメントするための「咀嚼嚥下」という新たな考え方についてなど、臨床現場におけるマネジメントのあり方について詳しく解説していくものとなっています。ぜひとも本セミナーにご参加いただき、栄養領域のマネジメントリーダーをめざしていただきたいと思います。

ヘルスケア・レストラン編集長 佐々木 修

日程

受講料:3,000円(税込、お弁当付き)

4月25日(土) 名古屋会場

5月2日(土) 仙台会場

7月4日(土) 東京会場

8月30日(日) 福岡会場

主催：株式会社日本医療企画

後援：一般社団法人 日本栄養経営実践協会

お問い合わせ 株式会社日本医療企画

☎03-3256-2885

http://www.jmp.co.jp/